

群馬県立藤岡工業高等学校			学校評価一覧表			(令和5年度版)			(別紙様式)		
羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合					
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① くくり募集、学科・コース選択制などは、本校独自の特色であると感じている生徒が80%以上である。	・ガイダンスや工業技術基礎の授業などを通して、生徒一人ひとりに合った学科・コース選択ができるよう指導する。	A	A	A	1年次の工業技術基礎の各科実習等の授業をととして、学科・コース特有の学びを行った。また、コース選択に際して、生徒との個人面談を実施し、将来の進路を考え行った。本活動を継続的に行いたい。	・県内工業高校の中でも相互に切磋琢磨すべきである。			
		② ものづくり教育（工業科目の学習や実習）を通して、実践的な技能・技術が身に付いていると実感している生徒が80%以上である。	・基礎、基本をしっかりと身に付けた上で、各学科の特徴を活かせるよう指導する。 ・課題研究への積極的な取り組みや学習成果発表会などを通して、生徒の満足度を高める。	B	A	A	生徒・保護者共に90%近くが、学習や資格・検定に対して努力をした実感を持っていると考えられる。それに対し職員は、各種資格や検定への挑戦・更なる知識技能の習得を望んでいる。生徒の意欲向上のために、今後も基礎基本の定着を図ることが必要である。	・受検希望者が増えるよう、まずは生徒募集がうまくいっていない原因分析が必要である。また、入学者においては、本校を希望した理由の分析も必要だろう。埼玉地区からの募集につなげることも考えてみてはどうか。			
		③ 環境に配慮した活動やボランティア活動に参加することで、地域社会や環境保全への貢献を意識している生徒が80%以上である。	・整美委員会や清掃活動を通した3R活動の推進、環境ボランティア活動への参加推奨。 ・地域との連携を図り、信頼され期待される学校づくりに努める。	B	B	B	本校生徒におけるボランティアや環境に対する取り組みがマスメディアにとりあげられ、地域への貢献も知られてきている。最近では学習環境の改善に対する意識向上もあり、校内におけるゴミの分別や資源化なども定着しており、年々状況は良くなっている。	・学校の存続が危ぶまれることのないよう、特色ある活動を期待している。			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 資格取得に挑戦し、卒業までに3つ以上の資格を取得している生徒が60%以上である。	・ジュニアマイスター顕彰制度や資格取得データベースの積極的な活用。 ・計画的な指導とともに、補習や個別指導を実施する。	A	B	B	令和5年度卒業生は、50名の生徒が3種類以上の資格を取得した。また、在籍269名の全校生徒が年間で延445の資格や検定を受験し、延合格者は240名であった。コロナ禍もほぼ収束してきたので、来年度に向け、資格取得について積極的に指導や補習を受け受験するように促したい。	・検定や資格試験の受験者が減っている。補習を行うも、合格に結びつかない状況である。受験料の値上げや試験の難易度等もあり、難しい面がある。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 学習に積極的に取り組み、学習内容の基礎・基本が定着していると自己評価している生徒が80%以上である。	・職員相互の授業公開と見学、研修などを実施し、「分かりやすい授業」を展開する。 ・朝学習の取り組みを通した基礎学力の向上。 ・成績不振指導生徒に対する組織的な指導。	A	B	A	授業に関しては、授業公開や研修を通して生徒の基礎学力向上に努めた。職員間でさらに情報交換を行いたい。朝学習では、3年生は一般常識に関するテキストを使用し、1・2年生は注意力養成ドリルを行った。真剣に取り組む生徒が増えた。成績不振者に対しては、昨年よりも粘り強く指導を行ってきたが、今後は組織的にわかりやすく行いたい。	・企業側としては、将来必要になる最低限の資格は取得してほしい。			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年・科会議において生徒に関する情報交換を月に2回以上実施するとともに、生徒とコミュニケーションを図りながら共通認識に基づく指導を行っている。	・定期的な各種会議における情報の共有。 ・各科、各分掌の協力と生徒への充実した支援。 ・教科担当者会議での共通理解と対応。	A	B	A	会議等で情報共有し、生徒理解に努めながら学校全体としてきめ細かい指導を行うことができた。教育相談的な配慮が必要な生徒も増えてきているので、より連携を密にして組織的な対応ができる体制づくりを推進していきたい。	・部活動に所属する生徒が減っており、活発でなくなってきた。部活加入者が増加し、活動が活発になるとまた違うのではないかと。			
		⑦ 安全管理・安全指導に努め、学校生活の全ての場面において安心して活動できていると感じている生徒が80%以上である。	・専門科目の実習や交通指導を通して安全教育を実施し、学校生活全般において自ら安全管理できる意識を醸成する。	A	A	A	工業高校として授業中における安全指導や毎月の定期点検を丁寧に行うことで、危険箇所の早期発見や速やかな修理等に繋げ、事故の未然防止に努めた。	・時代に合うよう、校則の緩和・見直しを検討するべきではないかと。			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ 「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	・HRや集会での講話。 ・学期ごとにいじめアンケートを実施。 ・校内巡回等の実施と、日頃からの生徒観察、相談しやすい体制の整備。	A	B	A	いじめ未然防止のために授業や行事を通して人間関係の構築に努めた。また早期発見・早期対応ができるように、生活アンケートの実施や各会議において生徒の情報共有を行った。いじめ行為が確認された際に、速やかに対応ができる組織作りを進めていきたい。	・保護者にも、いじめに関する状況等の情報共有をしてもらえると安心である。			
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 1日の遅刻者数が10人以下である。	・健康に配慮した生活、自己管理の徹底。 ・5分前登校の呼びかけ。 ・学期毎の遅刻指導の徹底。	C	B	B	固定の生徒以外的大幅な遅刻は減少傾向にある。遅刻理由としてSNS等の使用による寝不足が原因の遅刻が多いため、生徒会による呼びかけや講演会の実施などを含めて改善策を考えていきたい。また家庭とも連携をしながら改善していきたい。				
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 「自己の生き方」と「職業選択」を関連させた進路指導を行っている、生徒の80%以上が評価している。	・自己理解と職業理解をテーマにした進路学習をLHRで実施する。 ・外部や内部講師による計画的な進路セミナーを実施する。	B	B	B	進路ガイダンスやセミナーは、計画通りに実施でき、生徒の進路意識の向上につながった。一方、LHRでの進路学習は、ほかの行事との関係で計画通りにいかないところがあり、内容の見直しも含めて検討が必要である。	・企業の面接では「高校三年間で何をしたか」という点を聞き、採用している。部活動でも資格取得でも、アルバイトでも構わないので、何か継続して努力した経験を持たせてほしい。			
		⑪ 進路ガイダンスのほか、1学年企業・大学見学、2学年就業体験、3学年進路面接などの進路関係行事が、役立ったと考えている生徒が80%以上である。	・各学年に適した進路行事と進路学習を計画し、実施する。 ・外部の事業者と連携し、生徒の進路選択に役立つ情報を提供する。	A	A	A	それぞれの学年に適した進路行事および進路学習が実施できた。また、外部の事業者・機関と連携し、進路講座の実施や進路情報の提供が行えた。今後は、よりよい進路学習の場を検討していきたい。	・進路についての可能性を深められるよう、さらに生徒と対話をする機会を増やすとよいのではないかと。			
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。	・LHRや進路行事で常に進路意識を持てるよう工夫する。 ・生徒への進路相談と情報提供を積極的に行う。	C	B	B	生徒自身は、進路意識を持っているが、教員は生徒があまり意識していないと感じている。このギャップが自己評価が低い原因となっている。このため、教員が生徒の進路意識を理解できるようにすることが求められる。				
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 生徒の卒業後の進路希望について理解している保護者が、80%以上である。	・進路希望調査を機会として生徒と保護者で進路相談が行えるようにする。 ・保護者にも上級学校のオープンキャンパス参加を促す。	A	A	A	進路希望調査を家庭に持ち帰らせ、保護者ともに進路相談をするよう指導している。これにより、生徒・保護者間での進路先の共通理解が図られている。今後も、保護者が生徒の進路選択に十分関われるような方策を考えていきたい。				
		⑭ 家庭や地域社会の人々に学校の教育活動を理解してもらうため、「学校公開」を年3回実施している。	・一日体験入学、中学生ロボット競技大会、学習成果発表会の実施。	A	A	A	中学3年生を対象とした一日体験入学や、中学2年生を対象とした学校見学会、ロボット競技大会、学習成果発表会を実施した。今後も学校の教育活動を通して、情報発信を継続的に行いたい。	・学校の良い点を理解してもらえるよう、外部に対し積極的にアピールする必要がある。			
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 学校行事や学校から発信される情報に、関心を持っている保護者が80%以上である。	・的確かつ迅速なホームページの更新により、最新の情報発信を心掛ける。	C	A	B	ホームページの更新や、新聞記事の掲載を適宜行うことができた。また、学校紹介の内容も更新し、最新の情報を発信した。今後も動画や写真を増やしたり、デザイン等を工夫していきたい。	・地元企業としては、学校との協賛は地域貢献にもつながる。検討してもよいのではないかと。			
		⑯ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・授業改善委員会を通して、ICT機器の活用推進を図る。	A	B	A	プロジェクタや1人1台端末などのICT機器を活用した学習指導を行った。	・BYODの対象となる（今後入学してくる）生徒や家庭は、経済的負担もある上に分からないことが多く、不安を感じている。詳しい説明があるとよい。			
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・オンラインによるアンケート調査や健康観察を実施する。	A	A	A	ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善を行った。	・一斉メールで良いので、もう少しこまめに色々なお知らせが届くと、学校の様子が把握できてありがたい。			